

第47回 中高校生の吃音のつどい(お料理教室)

3月14日(日)、小学生11人、中学生5人、高校生8人、ご両親15人、スタッフ26人の計65名が参加。豊島区立池袋小学校ことばの教室及び家庭科室にて開催。恒例春のお料理教室(午前)と午後のグループごとの話し合い。

今回、小学生グループの話し合いでは、お料理教室にちなみ、様々な食材のカードを作り、食材から感じる感情を元に、「心のお弁当箱」というのを皆に作ってもらいました。玉ねぎだったら悲しかったことなど。子供達の書いた心のこもった力作を一部、紹介させていただきます。(リーダー;大森飛鳥、菊地由莉、高岡洋光、比嘉隼)

H. Y (小学5年)

この前の集いでは、おいしい料理をたくさん食べさせてもらいました。話し合いの時間もたくさんありました。大きな画用紙に今の自分の気持ち、思いを書きました。ぼくはそうやって文字にすることで、気持ちが軽くなりました。話すのと同じくらい自分の気持ちを表し、素直なことを伝えることができました。次の集いも話し合いの時間を長くとももらえればうれしいです。

E. O (小学5年)

つどいでは、お料理でロコモコを作った事と、紙に写真を貼り文章を書いた時間が楽しかったです。その理由はロコモコを作りながら、みんなと色々話せたからです。また写真の時間は、自分の気持ちを写真で表現することができてとても良かったです。その内の一つは『とうもろこし』。『とうもろこし』はみんなですいしょにいるという意味だと考えました。みんなですいしょだとうれしくて心がほつとなごみます。これからもつどいにたくさん参加したいと思います。



Y. T (小学3年)

「気持ちわるい・しっぱい(イメージする食べ物はいちじく)」

ようちえんで、「4月」を「よんがつ」と言っていました。なぜかと言うと、4月の「し」が言いにくかったから、ばれないようにしたかったからです。「よんがつ」って言ったら、友だちに、「なんでよんがつって言うの?」って聞かれました。私はなんで「よんがつ」って言うのがわるいの?って思いました。でも

今はゆきをもって、「しがつ」と言えるようになりました。なぜ言えるようになったかと言うと、ことばの教室のきつ音の人達が集まるグループで、お兄さんお姉さんに「どもる事ははずかしいことじゃないよ」って言われたので、「あっそうか」と思って、言えるようになりました。人間すごろくの?はてな?ボックスで、お兄さんが答えてくれました。前にも、「どもってもいいんだよ」という本をよんだ事があったので、その本の事を思い出しました。今までのつらいことがいつぺんにふきとばされました。

「よかった(イメージする食べ物はトマト)」

わたしが一ばんよかったと思うことは、なかよしの友だちがどもることになにもふれないことです。だからなかよしの友だちと遊ぶ時は、安心してたくさん言いたいことが言えます。なかよしの友だちがいでも、わたしがどもることをバカにしたり、ふしぎに思ったりしないでほしいです。そしてどもることはわたしのせいではないということをみんなにしてほしいです。

「からい・つらい(トウガラシ)」 どもった時に、友だちからまねされたこと(今はありません)。教科書を読む時に、あまりれんしゅうしていないんじゃないかと思われていたらいやです。

「あまい・うれしい(メロン)」

3月におりょうりを作って、みんなにおいしいと言われた事がうれしかった。

「おいしい・フワフワしてる・やわらかい・楽しい(マシマロ)」 となりにすんでいる友だちと遊ぶ時とても楽しいです。

「一生けんめい(キーウイ)」

バレエで発表会のれんしゅうをしている時。

Y. S (小4)

★さくらんぼ

わたしは、今、さくらんぼのような色の、明るい気もちです。なぜかというと、今、わたしといっしょの、きつおんの子ども、大人たちが集まって、心の中で、しまっていた、いやなことを、みんなで、話し合っ、かいけつできるからです。

★タイ

わたしは、二年生のころ、きつおんで、バカにされました。その時、友だちが来て、「ほつこうよ」と、言ってくれました。そして、その後、友だちが、「いいんだよ、だって、きつおんていうのは、Yのこせいだもん、Yは、Yらしかったらそれでいいんだよ」と、言ってくれて、わたしは、とてもいい気持ちになりました。その夜たいがで、わたしは、ぼつりと言いました。「今日は、めでタイ日」と、言いました。

★いくら

わたしは、一年生の時友だちと、ケンカして、とてもいやな気もちになりました。そして、学校をやすみました。休みを、とった時わたしは小さいころに、きつおんや、ケンカして、いやな心が、のこったことを、思い出しました。「Yちゃんって、へんな言葉の言い方するよね〜」とか「Yちゃんの手紙なんて、すててるから」とか、言われた言葉を、思いだして、その時とても、悲しくて、さみしくて泣きたい気分に、なりました。その時、心に、あながあいて、小さい心に、なってしまいました。

★りんご

わたしは、今、心が、はずむような気もちです。りんごのように、明るい色の気もちで、あまいにおいのするかんじの気もちだからです。わたしは、きつおんで、友だちもできたから、心がはずむ気もちなんだと思います。

★かぼちゃ

わたしは、かぼちゃの形のような気もちです。なぜかという、かぼちゃの中には、たねがいっぱいで、夢を、のせているような感じだからです。わたしの名前は、夢が入っていて、月のように、かがやかしい夢を、もってほしいからというみの名前です。なので、わたしはその名前のとおりに生きようと思うか

らです。だからかぼちゃのたねみたいな小さい自分から、かぼちゃの形の大きい夢まで走りつづけたいです。

Y. Sさんのお母さん

「娘の作文を読んで」

今回の自分の気持ちを物に例えて表現するという企画は、面白くて子どもの気持ちがよく分かっていいなあと感じました。娘が書いている内容は、実はほとんど聞いていた話でした。ほっとして安心している自分がいました。娘は自分の気持ちをいつも私には話してくれているやと感じました。うれしかったですね。これからもできるだけ話を聞いてあげられる様な環境を作っていきたいですね。

余談ですが、主人は「全然知らなかった」と言うでしょう。もちろん、私はその都度主人に娘が話したことを話していますが、覚えてないと思います。彼は、話の内容の細かいところよりも、もっと大きいところを見ているように思います。私も主人はそれでいいかなあとと思っています。

K. H (高校1年)

お料理教室、『ロコモコ』という聞いたことの無い料理でしたが、身近なものがセットになっているようなお料理でワクワクしました。私はハンバーグを主に作らせていただきました。玉葱を切っている時や、材料を混ぜている時など、皆さんとお話する事ができてとても楽しかったです。作業をしながらのたわいないおしゃべりは、気を使う事も無く、学校や家での事など、さまざまな事をお話できました。

話し合いは、『ブレインストーミング』という方法で進められました。議題は想像のしやすい出来事だったので意見が出しやすかったです。私は、議題に対しての答えが一つしか出ない時もありました。しかし、友達の意見を聞いて、考える幅を広げることができました。今回の話し合いも沢山の意見が出せました。充実した話し合いだったので、時間が早く過ぎてしまったようです。私としては、もう少し友達の悩みや、自分自身の悩みなどを話し合いたかったなと思いました。

今回の言友会も、都合の付く限り、参加したいと思っています。これからも沢山お世話になると思いますので、よろしくお願いします。

A. O(高校3年)

お料理教室に参加して、前から友達だった子達と久し振りに逢えて嬉しかったし、何か安心感を感じました。スタッフの方々も皆さん優しく話し掛けたりしてくれて、凄く嬉しかったです。お昼作りでは凄く楽しみにしていたのでワクワクでした。同じグループのみんなともすぐに仲良くなれてスタッフの方も親切に料理の手順を教えて下さりとても楽しかったです。ハンバーグ焦がしてしまったけど…笑。でもとても自分達が作った料理はどれも美味しく大満足でした。

そして午後は話し合いでした。同じ年代に別れて話し合いました。最初私の大嫌いな自己紹介があり、ヒヤヒヤドキドキしながら吃りながら自己紹介しました。でもいつもは吃ったら気にするけど、今日は吃っても全然気にしなかったし、むしろ沢山吃ってもいいんだって気持ちだったので気が楽になりました。

話し合いではスタッフさんの体験談を聞きました。どの体験談も凄く共感したし体験談を聞いて自分はとても考え方や生き方がちっちゃいなあと思いました。この貴重な体験談を聞いて、私も吃音だからといって視野を狭くするのではなく大きな人間になりたいと思いました。このスタッフさんの体験談を聞いて私は考え方や将来についての考えも大きく変わったと思います。聞いて良かったなあと思いました。同じ年や近い年の方の色々な吃音についての意見を聞けて凄く参考になり勉強にもなりました。

本当にお料理教室に参加して良かったと心から思いました。皆さんの吃音に対する思いや考えが聞けて良かったです。友達も増えて本当楽しい1日でした。

中西 智也(大学1年)

スタッフさんの体験談を読ませて頂き、様々な考え方を知りました。内容は人それぞれですが、吃音の悩みは自分の考え過ぎという面もあり、周りは

案外気にしていないという意見が全てに共通していると思いました。僕はどうしても他人の考えが気になってしまう性格で、全くだもりを気にしないで人と話せるようになることは難しいかもしれません。でも、これから様々な経験をする中で、それが出来るようにしていこうと思っています。今回の集いも吃音の悩みを共有出来て大変良い時となりました。ハンバーグの味が未だに忘れられません(笑)。

三村 美延(さいたま市教育委員会)

「中高校生の吃音のつどいについて思うこと」 【自己紹介】

私は、小学校の教員です。ことばの教室を担当した時に、「吃音」のある子供と初めて会いました。正確には、それまでも私の身近に吃音の方はいたのかもしれませんが、その認識は全くありません。私は吃音の指導について勉強するために言友会を訪れ、縁あって中高校生のつどいに関わるようになりました。その後、職場の異動があり、つどいからはしばらく離れておりますが、スタッフ同士のメールによる情報交換には目を通していますし、必要に応じて連絡を取り合っています。

【つどいとの出会い】

つどいに初めて参加したのは、8年ほど前のことです。最初は当日スタッフとして活動の進行を手伝う程度でしたが、事前事後の打ち合わせにも参加するようになりました。運営に直接関わるようになり、つどいが大切にしていることをまずは頭で、徐々に体で知っていくことになりました。

つどいで大切にしていたことは、話し合い活動とスタッフの心構えでした。話し合い活動は、吃音について語り合うことを通して、孤独ではないこと、隠す必要がないこと(オープンにしてよいこと)を体感していく大切な時間です。小学校低学年であっても日々の生活の中で感じていることは大きく、想いを表現するには十分です。

もう一つ、スタッフの心構えとしては、考え方や対処の仕方を参加者に助言するのではなく、吃音の先輩として自分の経験を話して聞かせること。体験を聞いた参加者は、今の自分と比べ、また、自分の将来と重ね合わせて、自己を見つめていきま

す。それだけでなく、スタッフにとっても、それまでの自分を振り返り、吃音について考える良い機会となります。学生スタッフがつどいのために時間を作り出し、真剣に話し合っている姿を見て、学生時代を遊んで過ごした私はとても感心したものです。

【久し振りに参加して】

つどいの特長は、吃音者本人が運営しているという点です。さらに、久し振りに参加した今回のつどいでは、家族の（運営への）参加を感じました。お父さんの参加が目立ち、継続して参加しているお母さんが積極的に進行に加わっていました。

悩みの多い思春期を支えられるのは、自分と同じ経験をしている吃音者と、自分を丸ごと受け入れてくれる家族だと考えます。中高校生のつどいが担う役割は益々大きくなることでしょう。益々の発展を願っています。



大森 飛鳥（スタッフ）

私は今まで、リーダーになることを避けていました。スタッフを続けて約2年の中で、リーダーを経験したのはたったの一回です。その理由としては、吃音の仲間がいるつどいの場所だとしても自分にリーダーができるという自信がなかったからです。そのため、誰かがやってくれるだろうという考えに甘えて、いつもサブ的な役目に回っていました。しかし、今回だけはリーダーをやりたいという気持ちがありました。それは、学生最後ということもあり、今までやり切れなかったことややり残したことを悔いがないようにしたいと思ったからです。それでも、この一日はとても楽しくて、思い入れが強く、私にとってはとても大切な時間でした。

お昼のロコモコを皆で食べている時、AちゃんがNちゃんに「もう半分が終わっちゃったね。ああ、帰りたくない」と言っているのを聞きました。一日を振り返ってその言葉を考えてみた時、毎回毎回、完璧な場所を作ろうとするのではなくて、ちょっとした失敗があっても参加者の方にそのような言葉を言って頂けることが一番嬉しく、頑張った甲斐があったと思いました。スタッフをしていく中で、自分が何もできないでいると感じて落ち込んだこともありました。自分自身の悩みや不安もたくさんあるのに、参加者の悩みに対してどのように接したらいいの

だろう、私がスタッフをしていていいのかなと迷った時期もありました。けれども、続けてきて本当に良かったと思っています。「帰りたくない」と思われるような場所を、自分達ができることができているという事実が、今までスタッフをしてきた意味が充分にあったと感じました。皆で知恵を出し合って、協力し合って作り上げたこの場所は、スタッフにとっても参加者にとっても大切な場所で、そんな場所に関わることができる自分に自信を持ちたいと思います。そして、つどいがきっかけで出会うことのできた多くの仲間に、感謝の気持ちを持ちたいと思います。ありがとうございました。

佐藤 ^{たかはる} 隆治（スタッフ）

人は、いろんな場所でいろんな食事をしますが、このお料理教室の食事は、世界で一番おいしい食事の一つかもしれません。高級レストランでの食事はもちろん素晴らしいですが、ここでしか作り出せない味。来てくださる参加者の方々の顔を思い浮かべながら、前日に、分担し合って食材買出し。イチゴ 150 個も買い占める？（イチゴ大福用）時って、ふわっと体が浮いてしまいそうに…。次に、150 個をどうやって傷つけずに運ぼうか？と悩む。駅までの自転車は、そーっとと段差乗り越え。でもこれは、とても幸せな悩み。誰がどんな風に食材買い求めて、それを誰が誰と一緒に作ったか？そうして誰と一緒に食べるのか？ハンバーグの味が忘れられないのは、当然なのかも…